

「主の洗礼の祝日」の説教

金 大烈 神父 2010年1月10日(日)

《愛によって罪を洗う》

おはようございます。

イエス様が何故洗礼を受けられたのでしょうか。

“洗礼”の意味は何でしょうか。それは“洗う”ですよね。では何を洗うのですか。何を洗うのが“洗礼”ですか？。“罪”です。罪を洗うのが洗礼です。しかし、神様の子であり、メシアであり、キリストである、何の罪も無いはずのイエス様が、わざわざ自ら洗礼者ヨハネの所まで行き、洗礼を受けられました。何故でしょうか。

このような事を考えた事がありますか。おかしいのではないのでしょうか。神様の子、いわゆる神様であるイエス様が何故ヨハネの元に行って洗礼を受けたのでしょうか。私が「このような事ではないか」と考えた2つの事について分かち合いたいと思います。

一つは、イエス様がこの世の中に遣わされた、その目的を果たす為に必ず必要なプロセスではなかったかと思えます。というのは、この世の中は色々な罪に縛られています。そしてその罪によって色々な人々が痛んでいる。罪の中でいつも痛んでいるのが人間である。しかし、イエス様は神様でありながらも、その人間の痛みに『私も共に与るよ』という意味ではなかったかと思えます。

『おまえは私の被造物』だと、ただ見下さすのではなく『この世の中で、あなた方が犯しているその罪、そしてその罪の結果として、あなた方が感じている痛み。その痛みを私も共にする』その様な意味でイエス様が洗礼を受けられたのではないかと考えました。

もう一つは、前と殆ど同じ様なものですが、『あなた方がどんなに頑張っても、罪の内にいる事を悟って欲しい』という意味ではないかと思えます。イエス様がこの世の中に来られてこの世をよく見ると、『やはり、この世は罪の内から逃げる事が出来ない、どんなに頑張っても綺麗な生き方をしようとしても、やはり罪と繋がっている。だから、あなた方にはいつも罪を洗おうとする、その心が必要である』。その意味でイエス様が洗礼を受けられたのだと思えます。

「それでは、私達は罪の内から解放されることはありませんか」と疑問を持つ方がいるかも知れません。しかし、これを厳密に考えてみますと、それは“希望”です。

何の“希望”ですか。“罪から悔い改めたら、その罪が無くされる事”それが希望として私達が抱くこととなります。イエス様さえ洗礼を受けました。もう一度繰り返しますと“洗礼”は“罪”を洗うのです。イエス様は御自分を模範として、罪を洗う洗礼式に与ったのです。

ですから、皆様も色々な罪によって、失望する事もあると思えます。「何故、この様な事をやってしまったのか」、「私はどうしようもない者だ」、「頑張っているのに、私のこの癖はどうしたら直せるのか」と、心配した事はあると思えます。私も沢山あります。そちらに座っていらっしゃるシスター方々もそうでしょう。皆にあると思えます。しかし、この事によって、「私達はどの様な罪を犯しても、私達は彼によって変えられる。彼が赦して下さる」、そういう希望を持つことが出来るのです。ですから、これは子供っぽい希望ではないのです。これは、本当に大人として、人生全体を見ながら抱く希望になるのではないかと思えます。

次に福音(ルカ3・15-16、21-22)を読んで感じた事を申し上げます。

旧約時代の人々、特にイスラエルの人々は罪について考える時、律法、例えば“十戒”の掟を守ら

なかったら、それを罪だと言いました。戒めを守らなければ、それを罪だと言いました。しかし、イエス様が来られて、新約の時が開くのですが、イエス様は、ややこしく、つまらないことがくぐくぐと書かれている“律法”を単純化されました。

単純化されたものはなんでしょうか。過去、いわゆる旧約の世では、律法を守らなければそれが罪でした。もし、その律法の中に入っていない項目であれば、自分が後ろめたい気持ちになっても、それは罪ではないと思ったのがイスラエルの旧約の人々でした。例えるのであれば、“マニュアル”の時代でした。しかし、イエス様は簡単に“一言”で、その律法、色々な戒めを一つにします。それは何でしょうか。

それは“愛”です。愛に反する事をすれば、それが罪です。愛を実践しなくてもそれは罪です。愛の内になくても、それは罪です。それが、イエス様が堅く、強く教えた“法律”です。ですから、イエス様はいつもおっしゃいます。『神様を愛し、人々を自分の様に愛しなさい』。この2つの言葉でまとめられます。

皆様、私達は、「これは罪か、罪でないか」その基準を探すのに迷った事もあると思います。簡単です。それが“愛”から始まったか、“愛”と関係ないものか、“愛”に反するものかをよく考えてみますと、私達がどの位、罪のうちにいるかを簡単に分かると思います。その愛の基準は、まず“神様”です。そして“自分自身”です。この2つの基準によって、私達が全ての事を見ることが出来れば、正しく生きる事の出来る希望が生じると思います。

最後に、洗礼者ヨハネは何と言いましたか。「私は、あの方の靴の紐さえとく値打ちがない」。という事は、私達はよく誘惑に陥ります。自分の事を人よりたたせようとする面が私達の中にあります。しかし洗礼者ヨハネは、「自分より優れた方がいて、聖霊と火によってあなた方に洗礼をお授けになる。私はただその人の道を整える役割だけで、何者でもない」と言われました。

留まるところと留まってはいけないところ、避けてはいけないところと避けなければならないところをはっきり弁えたこの洗礼者ヨハネをとおしても、私達の信仰を振り返ってみる必要があるのではないかと思いました。

さあ、天からどのような声が聞こえましたか。『あなたは私の愛する子。私の心に適うもの』。昨年も同じ事を申し上げました。これは、イエス様一人に送られた言葉、神様の御言葉ではありません。こちらに座っている全ての人々に向けておっしゃっている神様の御言葉です。

皆様は愛されている神様の子供です。

『あなたは私の愛する子。私の心に適うもの』

ありがとうございました。